

海外レポート



高潮による浸水被害に見舞われたベネチアのサンマルコ広場

## 温暖化、異常気象で サンマルコ広場が浸水

音楽ジャーナリスト

中 東生

2月といえばバレンタインデー。イタリアの人たちに「日本では女性が男性にチョコレットを贈る日」と話すと、笑います。

イタリアのテルニ出身の聖人ウアレんティヌスは、兵士の結婚を推奨したといわれ、それが原因で殉教した2月14日はイタリアでも「愛を祝う日」として、深紅のバラを抱える男性などをよく見かけます。

### ロマンチックな町テルニ 大気汚染でがん増加

愛の聖人の町テルニが、「イタリアで一番汚染のひどい街」とされているのは皮肉なこと。イタリアの真ん中辺りに位置するテルニは、大気汚染が深刻で、オゾンなどの排出は規定量を超え、鉛やクロム、ベンゼン、二酸化硫黄など複数の有害物質の中で市民は暮らし、多種のがん患者が増え続けています。

汚染源は複数で、東部は製鉄工場からの大気汚染、西部はゴミ焼却場の排気煙、移動手段と

して頼らざるを得ない自動車の排気ガス、今の季節は、暖房から出る排気煙も大気汚染に拍車をかけるのです。

大気汚染は霧の原因となるため、欧州の冬の暗さに拍車をかけますが、その暗さを忘れさせるかのように、2月はカーニバルが催されます。カーニバルの邦訳「謝肉祭」から想像できるように、「四旬節」と呼ばれるキリストの修行に沿った断食前の狂宴が起源です。

世界3大カーニバルの一つであるベネチアは、仮面と中世の衣装が昔ながらの街並みにマッチします。観光客が行かないような邸宅の仮面舞踏会では、海運の町ベネチア時代を彷彿とさせます。

### 異常潮位現象で浸水 住民はゴム長靴で外出

ベネチアは、海の中に杭を打って数十の島を人工的に作り、それを橋で繋いで、海に浮かんだ状態になっています。ところが、

1950年ごろから産業用に大量の地下水を汲み上げたことが原因とされる「アツクア・アルタ(異常潮位現象)」に悩まされています。

ベネチアでいちばん海抜が低いサンマルコ広場が浸水すると、木製の橋がかけられ、住人は皆ゴム長靴を持ち出して歩きます。その浸水対策として2003年にMOSE\*1という電動式水門造設が始まりましたが、汚職や計画の見直しなどで、まだ完成していません。

反対に島の地盤に水を注入して海抜を上げる案や、旧市街に立ち入る観光客への税を増やすなどの対策も検討されていますが、遅々として進んでいません。実現したとしても、地球温暖化がもたらす被害に対する応急処置の効果しかないようです。

イタリアに限らず人類にとって、直面する問題から目を逸らす狂宴は終わりにして、地球を守るための「断食」に入るべきときなのでしょう。

\*1: Modulo-Sperimentale-Elettromeccanico

中 東生(なか しのぶ): 東京芸大卒業後イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院に留学。著名な音楽家のインタビューをはじめ、音楽専門誌やコンサートプログラム、CDのブックレット執筆を主に欧州の音楽、文化、生活情報も発信。日欧文化交流企画も手掛けている。

Profile